

## スキーインターハイの舞台へ

Vol.3

来年2月6日から10日まで、県内の“スキーの聖地”八幡平市で開催される第60回全国高等学校スキー大会。6月号から市内の選手を紹介しています。今回は盛岡農業高校の選手です。

## 高校3年間の集大成で 田山の空にアーチ描く



畑中 啓夢 さん  
はたなか・ひろむ 3年 金沢

## ◎profile

中1からジャンプ・コンバインドを始める。好きな選手は小林潤志郎（東海大）。尊敬する人は永井陽一選手（松尾中教）。身長163㎝。血液型A型のおとめ座。17歳。柏台小→松尾中卒。

**初** めてジャンプ台のスタートラインに立ったときは怖くて足がすくむような感覚だった。2つ上の兄の後を追うように中学校からジャンプ・コンバインドを始めた。良い感覚で飛び出したときのジャンプの快感が畑中さんをスキーに引き付けていった。高校に入り、ジャンプ競技のサイズがノーマルヒルに変わった。踏切時の速度は時速80㎞を超える。入学直後はノーマルヒルを飛べなかった。毎週ミディアムヒルを飛んで体を慣らし、徐々にノーマルヒルへの恐怖心を克服していった。

現在は、スキー部（クロスカントリー）の仲間とローラースキーなどでトレーニングする傍ら、鹿角市まで行って、ジャンプの本数をこなし、感覚を体に叩き込む。ヨーロッパでは、総合的な運動能力が求められることからコンバインドの王者を「キング・オブ・スキー」と呼ぶ。クロスカントリーは持久力、ジャンプは瞬発力。バランス良く練習すること

を心掛けていた。今シーズン、インターハイに出場する本県のジャンプ・コンバインド選手は畑中さんただ一人。「プレッシャーはあるが、これまでお世話になった人や応援してくれる人たちに3年間の集大成を見せたい。前回よりも一つでも上の順位、目標は10番台」と語る畑中さん。スキーを教えたくれた地元のジャンプ台。田山の空にアーチを架ける。

## 地元の重圧乗り越えて 出場種目は入賞を狙う



館 卓仁 さん

たて・たくみ 3年 柏台二丁目

## ◎profile

中1から本格的にクロスカントリースキーを始める。好きな選手は夏見円。尊敬する人は高橋涼先輩（東京農大）。身長173㎝。血液型O型のふたご座。18歳。柏台小→松尾中卒。

**ま** まだ自分はやれる。さらに上を目指したい。中学校から始めたスキー。3年生のときには全国大会出場を経験し、自信をつかんだ。盛岡農業高校に進学してスキー一本で行くことを決めた。館さんはクロスカントリースキーの楽しさを「前の選手を追い越すことや全国の上まざまなコースで滑ること」と語る。シーズンを通して安定した力を発揮する下地を作るため、今の時期の練習を大切にしている。練習の成果は、下道一彦監督いわく「高校に入って最も成長した」と言わしめる。地元で開催されるインターハイに向けて「めったにないチャンス」と気が合いが入る反面「実力を出し切らなければならぬ」プレッシャーも感じている。「何度も滑り、知り尽くしたコース。コースの位置取りや仕掛けどころは分かっている。しっかりと戦略を立てて、出場できる種目はすべて入賞を目指したい。まずは県予選は負けられない」と意気込む館さん。この2年間の成績は関係ない。得意のラストパートで全国の強豪に挑む。

## リレー入賞を目指して 悔いの残らない滑りを



外柳 剣太 さん

そとやなぎ・けんた 3年 上野駄

## ◎profile

中1から本格的にクロスカントリースキーを始める。好きな選手は夏見円。尊敬する人は両親。好きな言葉は「平常心」。身長169㎝。血液型A型のしし座。17歳。松野小→松尾中卒。

**兄** がやっていった影響もあり、館さんと同様、中学校に入学してから本格的にスキーを始めた外柳さん。中学3年間では思うような結果を残すことができなかったが、苦しいレース中でも他の選手と競り合う楽しさや走り切った後の充実感に引かれ、卒業前から高校でも続ける決意を固めていた。フリー競技を得意としている。最後まであきらめず、粘り強い滑りが持ち味だが、本人は「全体的な筋力を付けて、好不調の波を小さくし、積極的な滑りでレースを進めること」を課題を挙げる。今年以下級生が入ってきたことが良い刺激となっている。負けたくない気持ちで、苦しいオフシーズンのトレーニングにも自然と力が入る。1年生のときからインターハイに出場しているが「自分の力を発揮できず、この2年間悔しい思いをした」と振り返る外柳さんは「今年が高校生活最後のインターハイ。滑り慣れた地元のコースでは負けたくない。個人では一つでも上の順位、リレーは入賞を目指す」とリベンジを誓った。